

第1学年1組 音楽科学習指導案

平成25年6月11日（火）第5校時

杉戸町立広島中学校

活動場所 第一音楽室

授業者 教諭 岩崎 友希乃

1 題材名 フレーズの特徴を生かした表現を工夫しよう

2 題材について

(1) 生徒の実態から

1年1組の生徒は、何事にも前向きに落ち着いて取り組んでいる。これは音楽の授業においても同様で、自ら進んで音楽を楽しもうとする姿勢が見られる。

本学級は、男子20名、女子13名の計33名で構成されており、音楽の授業では多くの生徒が一生懸命歌っている。しかし、声量は少なく、発声には未熟さが見られるため、日々の練習で歌の基礎を学んでいるところである。

中学校に入学してからは、「校歌」「Forever」の2曲を歌うことを通して、中学校で出会った新しい仲間とともに歌う喜びを味わわせ、音楽学習に対する意欲・態度を育ててきた。生徒たちは、一生懸命歌っているが、自分のイメージ（情景）を音楽に表現することが苦手である。そのため音楽を聴いてイメージ（情景）を持ったり、それを表現したりする活動を取り入れていくことで、楽曲への理解を深め、自主的に表現を工夫しようとする態度を育てていくことができると考え、本題材を設定した。

学習指導要領による「歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと」に則って、フレーズの特徴や強弱の効果、曲の構成を知覚し、曲のイメージ（情景）を感受して、曲にふさわしい表現を考えていくことにより、生徒の音楽活動をより豊かなものにしていきたい。

(2) 題材設定の意図

本題材は、中学校学習指導要領の「2 内容 A 表現（1）」に基づいて設定したものである。ここでは、歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現したい思いや意図をもって表現を工夫して歌う能力を育てることをねらいとしている。

音楽にはそれぞれ、その曲自体に込められた思いや情景がある。その曲想を感じ取って聴いたり、そこに込められた思いを想像しながら表現したりすることは、そのこと自体が音楽を楽しむということになる。ここでねらいとする「歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと」は、生徒自身がなぜこういうイメージ（情景）や感情をもったのかという根拠を、歌詞や曲の中に探すという行為につながっていく。これにより、その曲の特徴をつかむことができるようになり、曲にふさわしい表現がどういうものであるかが分かってくる。このような活動を通して、自分の描いたイメージ（情景）を音楽に表現する力を育てていきたいと考え、本題材を設定した。

3 研究主題との関わり

本校の研修主題は「基礎基本の定着と表現力の向上」～生徒がいきいきと学び合う授業を目指して～である。歌唱は、音楽の原点ともいうべきものである。したがって、歌唱は音楽科の基礎基本であ

る「音楽の体験的な活動を通して、音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じて、音楽を楽しもうとする態度」を育成することにおいて重要な活動であると考え。また、本題材では自分の感じたこと、考えたことを音楽だけでなく、絵や言葉など様々な手段を使って表現する活動も取り入れていく。これにより、生徒たちの表現力の向上も期待できると考える。

4 題材の目標

- (1) 歌詞のイメージ（情景）やフレーズの特徴、曲の構成に興味・関心をもち、それらを生かした歌唱表現活動に主体的に取り組む。
- (2) フレーズの特徴や強弱の効果を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じながら、歌詞のイメージ（情景）をどのように表現するかについて思いや意図をもつ。
- (3) 歌詞の内容やフレーズの特徴を理解し、曲想を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌う。

5 教材

「浜辺の歌」 林 古溪 作詞 成田為三 作曲

6 教材について

この楽曲は歌唱共通教材であると同時に、古くから日本で歌い継がれてきた曲であり、浜辺に打ち寄せる波の情景を表すような伴奏と叙情的な歌詞や旋律が特徴的である。したがって、この曲は我が国の自然の美しさを感じ取ることができ、豊かな自然のイメージが膨らませやすい。また、第1フレーズ（a）、第2・4フレーズ（a'）と第3フレーズ（b）の対比的な旋律から、フレーズのまとまりを知覚しやすく、強弱の変化を意識して表現を工夫することにも取り組みやすいと考える。この曲を通して、日本の歌の素晴らしさに気づかせるとともに、曲想を味わい、曲にふさわしい音楽表現を工夫させたい。

7 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕ア・イの関連及び具体的な学習活動

指導事項	(1) A 表現 (2) 歌唱ア 歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと。		
〔共通事項〕ア	音色、リズム	強弱	旋律、形式、構成
イ	リタルダンド		フレーズ、拍子
具体的な学習活動	・正しい姿勢や発声で歌う。 ・曲の情景を思い浮かべながら歌う。	・楽譜で強弱を確認しながら歌う。 ・曲想に合った表現を工夫して歌う。	・フレーズのまとまりをとらえる。 ・二部形式の音楽を理解する。

8 題材の評価規準（題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準）

	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
題材の評価規準	①歌詞の内容（歌詞の言葉の意味、歌詞が表す情景、など）や曲想（その音楽固有の表現や味わいなど）に関心を持ち、音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組んでいる。	①音楽を形づくっている要素（音色、リズム、旋律、強弱、形式、構成など）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、歌詞の内容や曲想を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	①歌詞の内容や曲想を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。
1時	①		
2時		①	
3時	①	①	
4時			①

9 題材の指導と評価の計画（全4時間）

時	○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆具体的評価規準（評価方法）
第1次 情景をイメージしながら歌おう		
1	○「浜辺の歌」を聴取する。 ・範唱を聴き、曲全体を確認する。 ○「浜辺の歌」を歌う。 ・ヴォカリーズで全員で歌う。 ・歌詞をつけて全員で歌う。 ○曲の構成を知る。 ・第1フレーズ(a)、第2・4フレーズ(a')と第3フレーズ(b)の違いについて気づく。 ・二部形式であることを知る。 ○曲の構成を生かして、「浜辺の歌」を歌う。 ・歌詞をつけて全員で歌う。 ・男女に分け、聴き合いをする。	○旋律の動きや楽譜中の記号などに注意して聴かせる。 ○個人のイメージを大切にするために、周囲と相談しないで聴くように指導する。 ○姿勢や口の開け方などに注意させる。 ○音程とリズムに気をつけて歌わせる。 ○音が取れているかを確認しながら伴奏する。 ○歌詞が正しくメロディに当てはまっているかを確認する。 ○繰り返し練習をして、楽に歌えるように指導する。 ○子音に注意して歌うように指導する。 ○曲の構成が二部形式(aa'ba')になっていることに気づかせる。 ○姿勢や口の開け方などに注意させる。 ○音程とリズムに気をつけて歌わせる。 ○音が取れているかを確認しながら伴奏する。

	・列ごとに分け、聴き合いをする。	○歌詞が正しくメロディに当てはまっているかを確認する。 ○子音に注意して歌うように指導する。 ○4小節フレーズのまとまりを感じ、ブレスなどに気をつけて歌うように指導する。 ○友達の演奏を聴くときの態度について確認をする。 ☆曲の構成を知覚し、生かして歌う活動に主体的に取り組んでいる。 (関① 活動観察)
2	○「浜辺の歌」の歌詞について知る。 ・歌詞の内容や言葉の意味を確認する。 ○自分で曲の情景を想像する。 ・自分が思い描いた情景を絵に描く。 ○自分が描いた情景からどんな音が聴こえてくるか考える。	○歌詞の意味を模造紙に書いて提示し、歌詞の内容を理解させる。 ○生徒から適宜発言を求めながら、歌詞の意味を理解させる。 ○ワークシートを用いて、1番と2番それぞれの情景を想像して絵を描かせる。 ○色鉛筆などを用いて描くよう指導する。 ○話し合いをせずに一人で取り組むように指導する。 ○作業が進まない生徒には適宜助言をする。 ☆ピアノ伴奏や旋律が生み出す曲の雰囲気を感じて絵で表現している。 (創① ワークシート) ○自分の描いた絵からどんな音が聴こえてくるかを考え、ワークシートに書かせる。 ○話し合いをせずに一人で考えるように指導する。
第2次 歌詞の情景や曲のまとまりに合わせて、音楽表現を工夫しよう		
	○書いた絵を見せ合う。 ・どんな絵が書けたか発表する。 ・自分たちが描いた絵では、どんな音が聞こえるかについて考えたことを発表する。 ○歌詞のイメージ(情景)と曲のまとまりに合った表現を工夫する。 ・ピアノ伴奏の動きと波の音との関連について気づく。	○挙手してから発表するように指導する。 ○友達の発表は静かに聴くように促す。 ○考えたことを発表し、クラス全員で考えを共有させる。 ○ピアノ伴奏だけを聴かせ、ピアノ伴奏がどんな情景を表しているのか感じ取らせる。 ○生徒から適宜発言を求めながら、歌詞のイメージ(情景)と曲のまとまりについて考えさせる。

3 (本時)	・第1・2・4フレーズと第3フレーズの違いについて確認する。 ・感情の高まりと強弱の結び付きを感じ取る。 ○考えたことを生かし、曲想を味わいながら歌う。 ・歌詞の内容やイメージ（情景）を想像しながら強弱をつけて歌う。	☆各フレーズの特徴や強弱の効果を意識して、歌詞のイメージ（情景）に合う表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 （創① 発言内容、ワークシート） ○改めて歌う姿勢や口の開け方を意識させる。 ○子音に注意して歌うように指導する。 ○4小節フレーズのまとまりを感じ、ブレスなどに気をつけて歌うように指導する。 ○楽譜で強弱を確認させながら歌うように指導する。 ☆歌詞の内容や言葉の意味を知覚し、歌詞のイメージ（情景）を思い浮かべながら強弱をつけて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 （関① 活動観察）
4	○「浜辺の歌」の作曲者や作詞者について知る。 ・教科書には載っていない3番の歌詞を知り、作詞者の心情を考える。 ○曲の仕上げをする。 ・歌詞をつけて全員で歌う。	○模造紙に3番の歌詞を書き、視覚的にも分かるようにする。 ○3番の歌詞で歌ってみる。 ○歌う姿勢や口の開け方を意識させる。 ○子音に注意して歌うように指導する。 ○4小節フレーズのまとまりを感じ、ブレスなどに気をつけて歌うように指導する。 ○楽譜で強弱を確認させながら歌うように指導する。 ○ピアノをよく聴きながら歌うように指導する。 ☆曲想を生かした、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌っている。 （技① 演奏聴取）

10 本時の学習（第2次 3／4時）

（1）本時のねらい

- ① 歌詞の内容や言葉の意味を知覚し、歌詞のイメージ（情景）を思い浮かべながら強弱をつけて歌う学習に主体的に取り組む。
- ② 各フレーズの特徴や強弱の効果を意識して、歌詞のイメージ（情景）に合う表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつ。

(2) 展開

過程	学習活動・学習内容	指導上の留意点（◆）・評価の観点（□）	備考・資料
導 入	1 前時の授業の復習をする。 (3分)	◆自分の意見がワークシートに書けているか確認させる。	ワークシート
	2 「浜辺の歌」を歌う。 ・ピアノ伴奏に合わせて1番 2番通して歌う。	◆姿勢や口の開け方などに注意させる。 ◆音程とリズムに気をつけて歌わせる。 ◆音が取れているかを確認しながら伴奏する。 ◆歌詞が正しくメロディに当てはまっているかを確認する。 ◆繰り返し練習をして、楽に歌えるように指導する。 ◆子音に注意して歌うように指導する。 ◆4小節フレーズのまとまりを感じ、ブレスなどに気をつけて歌うように指導する。	教科書
展 開	3 本時のめあてを確認する。	◆本時のめあてが確認できるよう提示しておく。	模造紙
	「浜辺の歌」の曲想に合った歌い方の工夫を考えよう		
	4 書いた絵を見せ合う。 ・どんな絵が書けたか発表する。 ・自分たちが描いた絵では、 どんな音が聞こえるかについて考えたことを発表する。 5 歌詞のイメージ(情景)と曲のまとまりに合った表現を工夫する。 ・ピアノ伴奏の動きと波の音との関連について気づく。 ・第1・2・4フレーズと第3フレーズの違いについて確認する。 ・感情の高まりと強弱の結び付きを感じ取る。	◆挙手してから発表するように指導する。 ◆友達の発表は静かに聴くように促す。 ◆考えたことを発表し、クラス全員で考えを共有させる。 ◆ピアノ伴奏だけを聴かせ、ピアノ伴奏がどんな情景を表しているのか感じ取らせる。 ◆生徒から適宜発言を求めながら、歌詞のイメージ(情景)と曲のまとまりについて考えさせる。 ◆拍子についても触れるようにする。 □各フレーズの特徴や強弱の効果を意識して、歌詞のイメージ(情景)に合う表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	ワークシート 黒板 チョーク ワークシート 模造紙 黒板 チョーク

	(創① 発言内容、ワークシート) ○「おおむね満足できる (B)」と判断できる具体的な状況例 各フレーズの特徴や強弱の効果を意識して、歌詞のイメージ (情景) に合う表現を考えながら、どのように演奏するかについての思いや意図を書いている。 ○「十分満足できる (A)」と判断できる具体的な状況例 各フレーズの特徴や強弱の効果を理解して、歌詞のイメージ (情景) に合う表現を工夫し、どのように演奏したいかについて自分の思いや意図を具体的に書いている。 ○「努力を要する (C)」生徒への支援例 各フレーズの特徴や強弱の効果を感じられない生徒には、適切な箇所を取り出して、歌ったり、ピアノで演奏したりして特徴を感じ取らせる。また、様々な表情を付けた範唱やピアノ演奏を聴かせ、どのように演奏したいのかについて自分なりの思いや意図をもつことができるようにする。	
6 考えたことを生かし、曲想を味わいながら歌う。 ・歌詞の内容やイメージ (情景) を想像しながら歌う。	◆改めて歌う姿勢や口の開け方を意識させる。 ◆子音に注意して歌うように指導する。 ◆4小節フレーズのまとまりを感じ、ブレスなどに気をつけて歌うように指導する。 ◆楽譜で強弱を確認させながら歌うように指導する。 □歌詞の内容や言葉の意味を知覚し、歌詞のイメージ (情景) を思い浮かべながら強弱をつけて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 (関① 活動観察)	

		○「おおむね満足できる（B）」と判断できる具体的な状況例 歌詞の内容や言葉の意味を知覚し、歌詞のイメージ（情景）を思い浮かべながら歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 ○「十分満足できる（A）」と判断できる具体的な状況例 歌詞の内容や言葉の意味を理解し、歌詞のイメージ（情景）を思い浮かべながら強弱を聴いている人に伝わるようにつけて歌う学習に主体的に取り組んでいる。 ○「努力を要する（C）」生徒への支援例 強弱をつけて歌う活動に主体的に取り組めない生徒には、強弱をつけて自信をもって歌える生徒の隣で歌わせる。また、歌詞のイメージ（情景）を目をつぶって思い出させたり、自分の描いた絵を見ながら歌うように指導する。	
	7 本時の学習の振り返りをし、次時の学習を知る。 ・自己評価シートを記入する。	◆ワークシートを提出させる。 ◆本時の自分の取り組みを生徒に振り返させる。 ◆次時の学習と持ち物を確認する。	自己評価シート

11 備考

第1学年3組

男子21名

女子13名

計34名

音楽科 学習プリント😊 ～「浜辺の歌」～ No.1

1年 組 番 名前

今日のめあて

曲の情景を想像して、絵に表現してみよう

♪「浜辺の歌」のイメージを絵で書いてみよう。そして、書いた絵からどんな音が聴こえてくるか考えてみよう。

< 1 番の絵 >

< どんな音が聴こえてくるかな。 >

< 2 番の絵 >

< どんな音が聴こえてくるかな。 >

音楽科 学習プリント☺ ～「浜辺の歌」～ No.2

1年 組 番 名前

今日のめあて 「浜辺の歌」の曲想に合った歌い方の工夫を考えよう

♪この曲のピアノ伴奏は（ ）の音を表現している。

♪この曲で一番大きく歌いたいののはどのフレーズですか？
(A ・ A' ・ B ・ A')

<理由>

♪今日の自己評価♪

- ・「浜辺の歌」に合った強弱を考えることができましたか？
(よくできた ・ まあまあできた ・ できた ・ できなかった)
- ・考えた強弱を意識して歌うことができましたか？
(よくできた ・ まあまあできた ・ できた ・ できなかった)
- ・今日の授業に一生懸命取り組むことができましたか？
(よくできた ・ まあまあできた ・ できた ・ できなかった)



1年 組 番 名前

今日のめあて

「浜辺の歌」の本当の意味を理解して歌おう

＜資料＞「浜辺の歌」は本当は3番まであった！？

「浜辺の歌」は1918年に発行されました。そのときの楽譜の表紙は、竹久夢二によって描かれた女性の絵で飾られていました。実は「浜辺の歌」には3番の歌詞があり、この絵の情景が歌われていたのですが、作詞者の強い希望で後年省かれるようになりました。

《浜辺の歌 三番 意味》
はげしい風が
波を吹き上げ
赤い着物のすそは
濡れてしまった
私の病気は
なおってきたが
浜辺の砂
いや 私の子どもは
どうしているのだろうか

《浜辺の歌 三番》
疾風（はやて）たちまち
波を吹き
赤裳（あかも）のすそぞ
ぬれもせじ
病（や）みし我は
すでにいえて
浜辺の真砂（まさご）
まなごいまは

※「赤裳」・・・赤い色の衣服

「まなご」・・・真砂と同じで細かい砂のことと、最愛の子どもという意味の愛子（まなご）の意味を同時に表す。

1・2番は林古溪が幼い日に神奈川県辻堂東海岸付近の浜辺を歩いたときの追憶を歌ったものとされています。現在を表しているのは3番です。

セリオ楽譜の初版の表紙→

